

実践
報告

企業市民としての取り組み



- 社会貢献活動の考え方・指針

- 次世代育成

- ▷ 総合住宅研究所の教育貢献活動
 - ▷ 体験教育の機会を提供する「住まいの夢工場」
 - ▷ 各地の教育貢献活動
 - ▷ インターンシップの実施
 - ▷ 「住空間ecoデザインコンペティション」開催
 - ▷ 環境教育プログラムの実施
 - ▷ 新梅田シティ「新・里山」での教育貢献
 - ▷ 「持続的住環境創成寄附講座」を創設
 - ▷ 「弁当の日」応援プロジェクトに参画

- 防犯・防災の啓発活動

- ▷ 防災意識の啓発
 - ▷ 災害時における地域との協働
 - ▷ 防犯教育と意識啓発

- NPO・NGOとの協働

- ▷ NPO・NGOとの協働
 - ▷ 「チャイルド・ケモ・ハウス」の運営に協力
 - ▷ キッズデザイン協議会
 - ▷ 西山卯三記念すまい・まちづくり文庫
～住文化の継承と発展への協力

- 公益信託「神戸まちづくり
六甲アイランド基金」

- 社会貢献活動社長表彰

- 住文化の向上

- ▷ 住まいづくりの教室「すまい塾」の開催

- 環境配慮

- ▷ 「企業の森」制度への参加
 - ▷ 埼玉県での環境活動

- 障がい者の自立支援

- ▷ SELP(セルフ)製品の販売協力、
ノベルティー採用
 - ▷ 障害者週間協賛行事への参画

- 従業員と会社の共同寄付制度
「積水ハウスマッチングプログラム」

- チャリティー・義援金・ボランティア

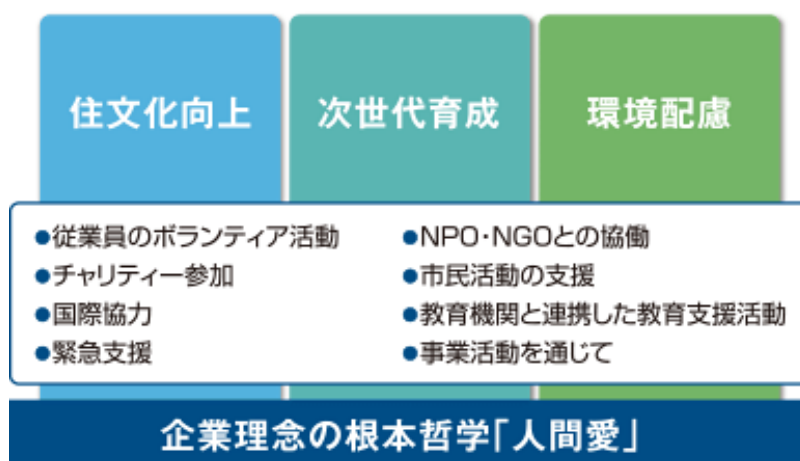
- ▷ 災害義援金
 - ▷ チャリティーフリーマーケットの実施
 - ▷ こどもの日チャリティーイベントへの協力
 - ▷ 地域イベントの支援

企業市民としての取り組み

社会貢献活動の考え方・指針

「住文化向上」「次世代育成」「環境配慮」を柱に、自発的活動を促す仕組みをつくり、活動を推進しています

人々の暮らしと地域社会にかかわる事業を営む当社は、地域と社会の一員として、さまざまな社会貢献活動を進めています。企業理念の根本哲学「人間愛」を活動理念に掲げ、「住文化向上」「次世代育成」「環境配慮」を柱に、本業を通じた活動はもちろん、「従業員のボランティア活動、チャリティー参加」「NPO・NGOとの協働、活動支援」「教育機関と連携した教育支援活動」などで、一人ひとりの自発的活動が可能な仕組みをつくり、地域に根差した活動を続けています。



【関連項目】

- > [住文化の向上](#) (p.348)
- > [次世代育成](#) (p.350)
- > [環境配慮](#) (p.365)
- > [防犯・防災の啓発活動](#) (p.370)
- > [障がい者の自立支援](#) (p.375)
- > [NPO・NGOとの協働](#) (p.378)
- > [従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」](#) (p.385)
- > [公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」](#) (p.389)
- > [チャリティー・義援金・ボランティア](#) (p.392)
- > [社会貢献活動社長表彰](#) (p.396)

住文化の向上

住まいづくりの教室「すまい塾」の開催

体験や実例見学ができる「こだわり講座」、
プロの講師が講演する「公開講座」にはこれまでに1万人以上が参加しています

当社では、住まいと暮らしに関心のある方々を対象に、住まいと暮らしについて学習する「すまい塾」を開設しています。2014年1月までに、「こだわり講座」に771人、「公開講座」に1万6339人の方が参加しています。





「すまい塾」は1992年、総合住宅研究所にある「納得工房」でスタートしました。納得工房は住まいに関するあらゆる体験を通じて「理想の住まい」を発見できる施設。自分にふさわしい住まいのイメージを、「知る」「わかる」「納得する」というプロセスを通じて組み立てていくことができます。「すまい塾」には「こだわり講座」と「公開講座」の二つがあり、関心をお持ちの方はどなたでも受講していただくことができます。

「こだわり講座」(全9回/4カ月、受講料:5000円)では、体験学習や実例見学を通じて住まいに関する基礎知識を幅広く身につけるとともに、家族の暮らし方や夢を整理し、こだわりの住まいづくりを見つけていただくことを目的としています。講師は各分野の専門家である当社従業員が担当いたします。「公開講座」は、総合住宅研究所 納得工房で開講している市民講座。住まいと暮らしにかかわりのある多彩なテーマを取り上げ、「その道のプロ」である講師を社外、社内から招き、講演形式で実施しています。また、過去の講義録をホームページからご覧いただくこともできます。



当社社員による「公開講座」の様子

【関連項目】

- > [「すまい塾」ホームページ](#)  (受講をお申し込みいただくことができます)
- > [「すまい塾 こだわり講座」ホームページ](#) 
- > [「すまい塾 公開講座」ホームページ](#) 
- > [「すまい塾 過去の公開講座・誌上公開講座」ホームページ](#)  (講義録)をご覧いただくことができます

多くの方に受講していただくため、事務所(支店)やインターネットでも「すまい塾」を開催しています

また、納得工房で開催している「こだわり講座」をアレンジした「すまい塾」を全国の事業所で展開しています。

さらに、好きな時に、繰り返し学習できるWebならではのメリットを生かし、自分のペースで学んでいただくことができるインターネットを活用した「Webすまい塾」もご用意しています。2013年度は241件のお申し込みをいただき、開設(2008年4月)から2014年1月までの累計申し込み数が2643件となりました。「Webすまい塾」は、住まいづくりの楽しさを多くの皆様に知っていただくことを目指して、全6レッスンと3つのスペシャルレッスンから構成される充実したカリキュラムで、登録・受講料は無料です。ご自身の理解度について課題に取り組むことでチェックすることもできます。

「Webすまい塾」のカリキュラム

LESSON1	入門編
LESSON2	キッチン編
LESSON3	性能・構造編
LESSON4	収納編
LESSON5	インテリア編
LESSON6	ファイナンシャルプラン編
Special Lesson	自然環境・エクステリア編～日本の樹を住まいに～
Special Lesson	自然とつながる涼しい暮らし
Special Lesson	子どものためのインテリアレッスン

【関連項目】

> [「Webすまい塾 修了生インタビュー」ホームページ](#) 

次世代育成

総合住宅研究所の教育貢献活動

当社総合住宅研究所(京都府木津川市)内にある「納得工房」は、人間性豊かな住まいと住環境をつくるため、生活者とともに体験・検証する「生活体験学習基地」として1990年に開設し、来館者の累計は70万人を超えました。その半数以上は、住まいづくりを体験的に学ぶために来館される方々ですが、五感をフルに使って学べる「納得工房」の大きな特長を生かして、さまざまな教育体験の場としても貢献しています。

教育体験を受け入れる総合住宅研究所では、職場体験や総合学習、あるいは専門知識の習得など教育機関のさまざまな要望に応えるプログラムを用意しています。小学生から大学生、専門学校生まで幅広い層を対象とし、建築だけではなく生活や福祉関連の学習施設としても活用されています。宿泊施設があるため遠方からの参加も可能です。

学習プログラムの一つ「住まい体験学習」は、建築・生活科学・デザイン系の大学生を対象とし、学校種別による推奨コースを設定したもので、納得工房スタッフが講師を務めています。近年、特に受講者の関心が高いのが、生涯住宅ゾーンの「GARO※体験」です。拘束器具や車いすなどを使用して、障がいや老化などの身体状態を擬似体験できるため、福祉や医療を学ぶ学生が増加し、研究や調査にも有効に活用いただいています。

※ GARO:「G:ガリバー・・・寸法変化」「A:(不思議の国の)アリス・・・環境変化」「RO:ロボット・・・身体拘束」を組み合わせた言葉。「我老(がろう)=我れ老いる」の意味も兼ねています。一般老化、妊婦、リウマチなどの状態を、拘束器具を使って体験(GARO体験)することで、健康なときには感じられない住まいの問題点を実感できます。

■ 建築・生活科学・デザイン系の大学生が対象の「住まい体験学習」



GARO体験の様子



建物の構造についても学びます

次世代育成

体験教育の機会を提供する「住まいの夢工場」

住まいの安心と安全、ユニバーサルデザイン、環境、エネルギーなどを学習テーマにしています

地震や火事などの疑似体験を通して、納得のいく住まいづくりを考えていただける体験型施設「住まいの夢工場」を全国6カ所に設置し、学生の体験学習を受け入れています。2013年度は2189人の学生を受け入れました。

「住まいの夢工場」では、防災・防犯など、住まいの安全と安心、ユニバーサルデザイン、快適な暮らしと環境、エネルギーなどのテーマを掲げ、楽しみながら体験学習ができるよう、さまざまな工夫をしています。小・中学生をはじめ、学生たちが「住生活」について学ぶ体験学習の場としても活用されています。そして、当社が提供する体験学習プログラムの一つに、震度7クラスの揺れを再現する地震体験があります。この体験を子どもたちが家族に話すことで、各家庭の防災意識が向上するなどの波及効果もあります。

「住まいの夢工場」での体験が、将来的に災害に強い住まいやまちづくりにつながることを願い、今後も多くの学生たちの体験学習の場として活用していただきたいと考えています。

全国の住まいの夢工場



1	東北 住まいの夢工場	宮城県加美郡色麻町大原8番地
2	関東 住まいの夢工場	茨城県古河市北利根2
3	静岡 住まいの夢工場	静岡県掛川市中1100
4	北信越 住まいの夢工場	富山県射水市有磯2-27-3
5	関西 住まいの夢工場	京都府木津川市兜台6-6-4
6	山口 住まいの夢工場	山口県山口市鑄銭司5000

【関連項目】 > [「住まいの夢工場」ホームページ](#)

これまでの取り組み

	見学者数(学生)
2009年度	2087人
2010年度	2213人
2011年度	1691人
2012年度	2000人
2013年度	2189人

次世代育成

各地の教育貢献活動

「住まいづくり」という当社の本業を生かし、小学校から大学まで幅広い層の教育機関と連携して、全国各地で体験学習をはじめ、環境にかかわる学習や、設計やインテリアに関する講義を中心に、職場体験の受け入れや出張授業を実施しています。

今後も全国の事業所やグループ会社で積極的に学生の受け入れを行い、次世代育成のための教育貢献活動に取り組んでいきます。

2013年度の主な教育貢献活動

事業所名	活動内容
札幌支店	中学生を対象に住宅・建設業の仕事に関する体験学習を実施
仙台北支店	小学・高校生を対象に、支店設計課およびショールームを見学、社員が案内・説明
青森支店	高校生を対象に当社の環境配慮型住宅「グリーンファースト」について講義、ショールーム「住まいの家学館」にて体験学習を実施
東関東営業本部	小中学生のキャリア教育(環境教育)派遣講師として、「理想の住まい、安全・安心なまちづくりやハウスメーカーの社会貢献」について講義
千葉シャーメゾン支店	中学生への職場体験として2日間の日程で開催 1日目は現場・展示場・分譲地見学を実施 2日目は設計ソフトを使用してのプレゼン資料の作成を実施
名古屋東支店	小学校PTAを対象に「子どもの育ち方」についての講義を開催
三重支店	三重県環境学習センターにおける3月の企画展示として、親子で楽しめるペーパークラフト作りを実施
福知山支店	営業・設計の仕事内容を紹介する出張授業を2日間にわたり実施。 中学生5人を受け入れ、建築・設計の仕事を体験
岡崎支店	インテリアコーディネーター志望の中学生の職場体験を受入
愛媛支店	高校でのインテリアコーディネートに関する出張授業と、中学生の職業体験学習を実施
総合住宅研究所	大阪府高齢者大学の講師として「先端科学技術を学ぶ科」における「住宅の技術」に関する講座を5回担当。 大阪府下の小学校にて、住宅のユニバーサルデザインを学ぶ出張授業を開催
人事部	大阪府下の小中高の教諭を対象に、当社の理念や事業活動、人材育成の仕組みなどについて学習いただく3日間の研修を実施
積水ハウス 梅田オペレーション	小学校2年生の生活科で「自分の住んでいる町に興味をもって、新しいことを発見し、町の人々とのかかわりを持つ中で、町の良さに気付こう」という学習に、近隣施設として協力

次世代育成

インターンシップの実施

当社は、次世代の職業人育成を支援することも企業にとって重要な社会的責任であると考え、大学生のインターンシップを実施しています。

2013年度の取り組み

「発達障がいをもつ学生のインターンシップ」を実施

2013年度は発達障がいを持つ大学生2人のインターンシップを受け入れました。5日間のインターンシップでは、事務のほか、CADソフトやITを活用した実務にもチャレンジしていただきました。全ての方が自分の可能性を広げ、自信を持って社会に参加していくためのきっかけとなることを目的に、今後も取り組みを継続していきます。

また、昨年に引き続き、建築系専攻学生を対象にしたインターンシップ(7日間)を実施し、52人の学生を受け入れました。住宅建築技術が体感できる総合住宅研究所(京都府木津川市)の見学、事業の最前線である支店での住まいづくりプロセス体験のほか、先輩社員との交流機会も設けました。



52人の建築系専攻学生が、インターンシップを体験しました

【関連項目】

> [「2013年 積水ハウス建築系インターンシップ体験レポート」ホームページ](#) 

次世代育成

「住空間ecoデザインコンペティション」開催

学生と共に住空間デザインを考える産学協働のプロジェクト「住空間ecoデザインコンペティション」を2005年度より実施しています。住空間における環境意識を高めて、さらに質を向上させた作品を企画するとともに、産学の連携強化、学生間の交流促進、若きデザイナーの育成を主な目的として、関東と関西の2会場でコンペを実施しています。

2013年度は全国47大学214作品の応募

1次審査を通過した作品の2次審査は本コンペの最大の特徴であるワークショップ(参加型)形式で行われ、公開プレゼンテーション審査や懇親会では学生同士の交流も図られました。また、優秀8作品には原寸大モデルの制作権が与えられ、プロのモデル業者とともに制作にあたることとなります。完成した原寸大モデルは11月からの公開展示会にて公開されるとともに、最終審査の対象となります。また、最優秀賞などの賞を受賞した作品に対しては、協賛企業が特許申請を行い、実際に製品化する可能性もあります。2013年度は全国47大学から214作品の応募がありました。

コンペティションの課題

2.4m立方に納まる原寸大モデル制作を前提として、地球環境をサステナブルなものとして、子どもや孫に残していくための「ecoな住空間」を実践できる「空間・仕掛け」を提案します。ここで言う「住空間」とは住宅の内部空間に始まり、屋外の共有空間・公共空間に展開して行くものです。

“気候変動”という状況の下、“エネルギー”、“水”、“食”、“3R”、“交通”、“生物多様性”などの課題を学ぶとともに、下記4つのキーワードを重視した「住空間」のデザインとします。

1. 家族のコミュニケーション空間：暮らし団欒の中心、食空間、水空間、境界など
2. 近隣のコミュニケーション空間：緑地、路地、境界、水辺など
3. 自然と共生する仕掛け：自然力とハイテクの融合、快適とエコの両立、目覚める五感など
4. 自然災害への対応：防災、危機管理、発災後の住空間など

最優秀作品

関西・関東の各会場で9月の2次審査を通過した各4作品が11月に最終審査(原寸大プレゼンテーション)を終え、関西・関東共、最優秀賞1作品ずつが決定しました。

当プロジェクトは実寸大模型を制作監修できる実践的内容で、学生の関心は非常に高く、好評です。東西の学生が審査会で交流したり、コンペティションを経験・卒業した先輩が後輩にアドバイスするなど、参加者同士が関わりを持てる場として大いに活用できます。今後、産学協働の輪をさらに強く大きなものにしていきたいと考えます。



<関東・最優秀賞>「光のブックステーション」
東京大学大学院 松井一哲さん、東京工業大学大学院 張昊さん、
東京大学大学院 小原克哉さん、東北大学大学院 柳旻さん

■ 受賞者の声

本提案は「部分的なモックアップではなく、小さくても『空間』のある実物をつくること」をまず念頭に置き、設計を始めました。岩手県大槌町を対象敷地とし、現地の山の所有者や製材所の方々とじかに話し合い、工場で職人さん達と共に制作しました。そうしたすべての過程にかかわらせていただいたことで、普段の設計活動だけでは見えてこない、モノづくりの素晴らしさを学ばせていただきました。


<関西・最優秀賞>
「スペースエディター」
熊本大学大学院 尾崎繭さん



■ 受賞者の声

本提案は「部分的なモックアップではなく、小さくても『空間』のある実物をつくること」をまず念頭に置き、設計を始めました。岩手県大槌町を対象敷地とし、現地の山の所有者や製材所の方々とじかに話し合い、工場で職人さん達と共に制作しました。そうしたすべての過程にかかわらせていただいたことで、普段の設計活動だけでは見えてこない、モノづくりの素晴らしさを学ばせていただきました。

【関連項目】

- > [「住空間ecoデザインコンペティション」ホームページ](#) 
- テーマ、審査委員、スケジュール、過去の実賞作品などをご覧ください

次世代育成

環境教育プログラムの実施

子どもたちが環境について楽しく学べる機会を提供しています

地球温暖化防止や環境保全を推進するためには、次世代を担う子どもたちへの啓発活動も大切です。そこで、当社は「エコ・ファースト企業」として環境大臣と取り交わした3つの約束(1)CO₂排出量削減、(2)生態系ネットワークの復活、(3)資源循環の取り組みをテーマとして、暮らしの中でできる省エネや自然環境保全、資源の有効利用の大切さを「楽しく学ぶ」3つの体験型学習プログラムを実施しています。2013年度は、地球温暖化と暮らしのかかわりを学ぶ「いえコロジー」セミナーを福島、埼玉、大阪など全国10カ所、計35回、生態系や在来種・外来種問題を考える「Dr.フォレストからの手紙」の出張授業を8回(909人)、教員研修を1回(40人)実施しました。

地球温暖化と暮らしのかかわりを学ぶ キャプテンアースの「いえコロジー」セミナー

実験や予想などの「体験」と「ゲーム性」を取り入れながら、地球温暖化と暮らしのかかわりを学び、「住宅」という暮らしの中にある身近な題材をもとに「エコな暮らし方」の理解と、「子どもたち自らのアクション」を促します。子どもたちの主体性を重視し、「気づき」や「発見」の楽しさから“理科離れ”を解消していくプログラムです。

45分コースの例 <暮らしの省エネ・断熱性能について>

■ 講義(10分)

概要、趣旨説明

パワーポイントを投影、子どもたちに質問を投げかけながら、身近な例をあげ「エコ」or「エコじゃない」について考える。



■ 実験(25分)

断熱性能の実験①(10分)

放射温度計の使い方を説明。

ポットのお湯と表面温度を測り、「断熱性能」について考える。

断熱性能の実験②(15分)

住宅に使われている部材とドライアイスを使い、温度変化を追求しながら熱伝導について学ぶ。



■ まとめ(10分)

- 赤外線サーモグラフィカメラを使って、部材の熱の伝わり方を確認
- 暮らしの中で「断熱性能」を活かした例を紹介
- 実験②で使用した部材は住宅のどこの部分で使われているかを説明。断熱性能が優れた部材を利用する事で「エコ」な暮らしができることを理解する。
- キャプテンアースとの約束
今日から「エコ」な暮らしをするため、自分に何ができるのか、キャプテンアースに約束(発表)する。



<お問い合わせ先>

コーポレート・コミュニケーション部CSR室

TEL:06-6440-3440 E-mail: csr@sekisuihouse.co.jp

生態系や在来種・外来種問題を考える「Dr.フォレストからの手紙」

校庭などの身近な自然をテーマに、緑の専門家(Dr.フォレスト)から出されたミッションをクリアする中で、生態系や在来種・外来種問題を考え、そこで得た新しい知識や視点・考え方をこれからの行動につなげることを目的としたプログラムです。2007年には、第2回キッズデザイン賞(コミュニケーションデザイン部門)(主催:NPO法人 キッズデザイン協議会)を受賞しています。教師が自由にアレンジすることのできる教材提供(教材データ式のダウンロード)と緑の専門家(Dr.フォレスト)が学校にやってくる出張授業(講師派遣)の2種類をご用意しています。また、本プログラムをベースにした教員研修(教育委員会、教科研究会などで主催する研修会への講師派遣)も実施しています。

学校の教室や校庭で「Dr.フォレスト」から出されたミッションを解決しながら、楽しく生態系について学ぶことができるプログラムです。



	教材提供	出張授業	教員研修
	"体験思考型"環境教育プログラムを無償でダウンロードできます。	緑の専門家が"体験思考型"環境教育の出張授業を無償で実施致します。	教師を対象に、授業プログラムを体験する研修を無償で実施致します。
内容	授業プログラム教材一式提供	出張授業プログラム・講師派遣	授業プログラム教材一式提供
対象	小学校4～6年生 (クラス単位での実施) ※教材のアレンジにより中学校での実施も可能	小学校4～6年生 (クラス単位または合同での実施)	・教育委員会・研修センターなどで研修の企画または講師を担当される方 ・各教育委員会が取りまとめる現役の教員
詳細	"Dr.フォレスト"からの手紙 	"Dr.フォレスト"と校庭に出よう! 	"Dr.フォレスト"による教員研修プログラム 

<お問い合わせ先>

環境推進部

TEL:06-6440-3047

資源そのものやゴミ分別の大切さを学ぶ 「リサイクラー長官に学ぶトレジャーハントツアー」(施設見学版)

ゴミの不法投棄問題等について理解を深めた後、住宅建築で出たゴミを直接触り、それがどのようなものにリサイクルされるのかを学び、資源そのものやゴミの分別の大切さを学びます。



お問い合わせ先

関東工場 総務部

TEL:0280-92-1531(施設場所:茨城県古河市)

これまでの実績

	「いえコロジー」セミナー	Dr.フォレストからの手紙	リサイクラー長官
2009年度	39回	出張授業: 17回(1,214人) 教員研修: 4回(180人)	施設見学型: 4回
2010年度	73回	出張授業: 20回(1,071人) 教員研修: 3回(67人)	施設見学型: 1回(39人) 出張授業型: 1回(116人)
2011年度	50回	出張授業: 8回(479人) 教員研修: 2回(30人)	—
2012年度	22回	出張授業: 5回(491人) 教員研修: 1回(20人)	—
2013年度	35回	出張授業: 8回(909人) 教員研修: 1回(40人)	1回 ※事業所が主催する親子セミナーで実施

次世代育成

新梅田シティ「新・里山」での教育貢献

2006年7月に本社がある新梅田シティ(大阪市北区)の公開空地内に、「5本の樹」計画の考え方を取り入れつくられた約8000㎡からなる「新・里山」では、2007年より毎年、近隣の幼稚園、小学校と連携して、当社従業員が講師を務め、体験学習を実施しています。

また、オフィスワーカーによるボランティア活動も活発に行われています。新梅田シティで働くオフィスワーカーによるボランティア組織「新梅田シティ里山くらぶ」では、2013年度に22回の活動を実施、延べ237人が参加しました。年間を通じて勤務前に活動を実施する「朝活」や、昼休み時間内に活動する「昼活」に加え、茶摘み体験や夏野菜の試食会なども活動の一部に取り入れました。

■「新・里山」四季折々の風景



春



夏



秋



冬

■「新・里山」全体図



	幼稚園	小学校	オフィスワーカー
5月			夏野菜の植付け
6月	サツマイモ植え	田植え	玉ねぎの収穫 田植え
7月		田んぼ 除草作業	夏野菜の誘引・除草
8月			自然観察会と 夏休みの自由研究相談
9月			冬野菜の植付け
10月	イモ掘り	稲刈り	イモ掘り 稲刈りと稲架掛け
11月		脱穀	脱穀
12月			冬野菜の管理 もちつき



2013年度の取り組み

都会の真ん中で実施する農業体験学習に、小学生51人、幼稚園児50人が参加

地元の幼稚園や、小学校の総合学習授業の場として、当社従業員が講師を務める、無農薬による農業体験学習を2007年度から実施しています。2013年度は、大阪市立大淀小学校5年生51人が、田植えや除草作業、稲刈り、足踏み式脱穀機

や唐箕(とうみ)を使った脱穀作業など機械に頼らない昔ながらの米づくりを実施しました。また、大阪市立中大淀幼稚園の園児50人はサツマイモの植え付けとイモ掘りを体験しました。さまざまな農作業体験を通して食とものづくり、自然共生の大切さを学ぶ場として活用してもらおうことを目指しています。



中大淀幼稚園児による
サツマイモ掘り(10月)



大淀小学校5年生による
田植え(6月)



6月に植えた
稲の刈り取り(10月)

これまでの取り組み

	小学生による 「米づくり体験学習」	幼稚園児による 「サツマイモの栽培と野菜 の生長観察」	オフィスワーカーによる ボランティア活動
2009年度	62人	26人	6回・104人
2010年度	53人	40人	4回・34人
2011年度	67人	39人	15回・178人
2012年度	61人	51人	13回・121人
2013年度	51人	50人	22回・237人

社外からの評価

2010年度	ストップ温暖化「一村一品」大作戦 全国大会「銅賞」 (主催:環境省)
2010年度	企業フィランソロピー大賞 特別賞「自然共創賞」 (主催:公益社団法人日本フィランソロピー協会主催)

【関連項目】

> [「新梅田シティ 新・里山」ホームページ](#)

次世代育成

「持続的住環境創成寄附講座」を創設

東日本大震災により、大規模災害による社会不安が強くなり、防災に対する備えが緊急の課題であることを強く意識させられました。こうした社会背景も踏まえながら、神戸大学に住環境における持続可能性や多様性をテーマとした「持続的住環境創成(積水ハウス)寄附講座」が、当社の寄附により創設されました。

2013年6月29日、寄附講座創設の記念シンポジウム「地球時代の環境創成に向けてー建築とランドスケープの可能性を語るー」が開かれ、約150の方が参加。建築家の團紀彦氏や造園家の進士五十八氏による基調講演のほか、パネルディスカッションも実施しました。

この寄附講座は今後5年間実施され、将来に向けた持続可能な住環境を具体的に創造していくための実践的な提案と課題の解決を目指します。



パネルディスカッションと満席の会場の様子

【関連項目】

> [「神戸大学大学院持続的住環境創成講座\(積水ハウス\)」ホームページ](#) 

次世代育成

「弁当の日」応援プロジェクトに参画

弁当づくりを通じて、子どもの生きる力、感謝の心を育む「弁当の日」の取り組み趣旨に賛同した企業が連携して「弁当の日」の普及展開を応援する「弁当の日」応援プロジェクトが2012年に発足し、当社も参画しています。

「弁当の日」は、子どもの感性、成長を育みます

「弁当の日」は、献立づくりから、買い出し、調理、弁当詰めから片付けまで、親は一切手伝わず、すべて子どもたち自身に取り組むものです。弁当作りを通じて、“食の大切さ” “作る楽しみ” “作ってもらう感謝の気持ち” を創出し、子どもの感性、成長を育みます。元小学校校長の竹下和男氏が提唱した「弁当の日」の取り組みは、現在1000校以上の小中学校で実施されています。

「弁当の日」は、子どもの感性、成長を育みます

「弁当の日」は、献立づくりから、買い出し、調理、弁当詰めから片付けまで、親は一切手伝わず、すべて子どもたち自身に取り組むものです。弁当作りを通じて、“食の大切さ” “作る楽しみ” “作ってもらう感謝の気持ち” を創出し、子どもの感性、成長を育みます。元小学校校長の竹下和男氏が提唱した「弁当の日」の取り組みは、現在1000校以上の小中学校で実施されています。





講演会の風景



初めてのお弁当づくり。みんな一生懸命に取り組めます。出来上がったお弁当は、最後に親子で試食しました。

【関連項目】

- > [「弁当の日」イベントの竹下和男氏のご講演録をご覧ください](#) 
- > [「弁当の日」ホームページ](#) 

環境配慮

「企業の森」制度への参加

「5本の樹」計画を社会貢献活動でも実践

「里山」を手本とし、各地の気候風土に適した自生種・在来種を中心とした植栽を通じて、生態系保全につながる「5本の樹」計画を社会貢献活動でも実践しています。

和歌山県「積水ハウスの森」

当社は、和歌山県が実施する「企業の森」制度※1を活用した森林保全活動に取り組んでいます。世界遺産・熊野古道に近い田辺市中辺路に「積水ハウスの森」と名付けた約2.6ヘクタールの森林を10年間の予定で借り受け、2006年4月から年に2回、積水ハウスおよびグループ会社従業員、協力工事店の方々が参加して、春と秋に植樹、下草刈りなどを実施しています。「積水ハウスの森」には、当社「5本の樹」計画の趣旨に沿った広葉樹（コナラ、ケヤキ、ヤマザクラ、クヌギ等）を植樹。現地森林組合の方々の指導の下、春は補植、秋は下草刈りを中心に活動しています。また、さまざまなレクリエーションも企画し、地元の方々とのコミュニケーションを図っています。

68人が参加した2013年春は、2012年に続き、「パッチ植栽」※2を実施、鹿の食害から苗木を守るため、周囲をネットで囲う作業を行いました。また、56人が参加した秋は、下草刈り、肥料やり、ネット補修などの作業を行いました。

2013年度末までに計15回活動し、参加人数は延べ1381人となっています。



「パッチ植栽」をするためのネット張り作業



※1 「企業の森」制度：企業が地元の森林所有者から土地を借り、植樹や下草刈りに参加することで森林保全を支援する制度。輸入木材に押されて利用が減った結果、手入れが行き届かずに荒れたまま放置されている地域の森林を保全することを目的としている。近年、各地の自治体で実施され、特に和歌山県では、県がコーディネートして積極的に推進。日常的な管理を地域の森林組合に委託することで、地域活性化や雇用支援にもつながる取り組みとして注目される。

※2 数種類の樹木の苗木をかたまり（パッチ）として植栽し、樹種の異なるパッチを混ぜて配置し、混交林を造成する植栽方法。

参加人数

年度	実施月	参加人数
2006年	4月	120人
	9月	112人
2007年	4月	85人
	9月	100人
2008年	4月	83人
	10月	88人
2009年	3月	102人
	10月	165人

年度	実施月	参加人数
2010年	3月	103人
	10月	79人
2011年*	3月	70人
2012年	3月	72人
	10月	78人
2013年	4月	68人
	10月	56人

* 秋の活動は、台風水害の影響を受け、延期しました。

青森県「企業の森」

■ 青森県と「森林づくり協定」を結び、「企業の森」活動

「エコ・ファースト企業」の認定を受け、当社東北営業本部は、2010年に青森県と造林事業委託契約を締結。青森県五所川原市にあるカラマツ伐採跡地1.37ヘクタールの荒地に、ブナ・ヒバ・ケヤキ・ヤマザクラ等を植樹する「積水ハウスとみんなの森」がスタートしました。この活動は、2014年までの5年間の実施予定で、従業員はもとより、協力工事店、オーナー様と共に、「植樹祭」、「下草刈りイベント」等を定期的(年2回程度)に実施しています。追加植樹として、2014年までで約500本の植樹を実施します。この活動が社内で評価され、2013年度社会貢献活動社長特別賞を受賞しました。今後も、下草刈りや補植などの森林整備活動、また従業員やその家族が参加する自然体験(稲作や観察会)などの活動を一層推進し、地域との交流も拡大していきます。

また、本活動から派生した取り組みとして、青森県各所における自然保護運動や植樹活動「白神山地植樹」「陸奥湾植樹祭」などにも積極的に参加しています。

さらに、支店付近の国道4号線沿いにおいて「花いっぱい運動」を始動し、沿道の企業やオーナー様、社員に働きかけ、エリアの美化に取り組んでいます。



青森県「企業の森」植樹



白神山地植樹の際の集合写真

「東京グリーンシップアクション」八王子滝山・八王子大谷地域里山保全活動

2013年5月19日、東京営業本部内4支店（東京北、東京西、東京南、東京シャーウッド）が合同し、「東京グリーンシップアクション」八王子滝山地域里山保全活動に参加しました。

「東京グリーンシップアクション」とは、東京都条例に基づき、都内に残る貴重な自然地を守るために、東京都、NPO、企業とが連携して行う自然環境保全活動。この地域では、当社が活動に取り組む初の企業となりました。

当日の活動場所は、東京都八王子市北部に位置する4ヘクタールの保全地域で、長年の管理不足によるアズマネザサの繁茂や外来種の侵入などが見られる地域。良好な里山環境を取り戻すため、多様な生き物の生息空間にも配慮しながら、ササの伐採、倒木処理、池づくりを行いました。

ハードな作業でしたが、「またぜひ参加したい」という声も参加者から聞かれ、充実した活動となりました。エコ・ファーストの約束の一つである「生態系ネットワークの復活」の具体的な取り組みとして、社会のため、未来のため、活動を今後も続けていきます。



保全活動参加者の集合写真



作業の様子

環境配慮

埼玉県での環境活動

環境保全活動を通じた環境学習を実施

「エコ・ファーストの約束」に基づく3つの環境学習プログラムを準備し、小中学校から一般向けに、「環境学習応援隊」として環境学習を実施しました。その他、東松山市きらめき大学からの授業要請など幅広く活動の場を広げることができ、埼玉県の環境保全につながる活動を行ってきました。



「環境学習応援隊」による授業の様子

環境配慮型住宅「グリーンファースト」1棟建築につき2000円を寄付

当社が太陽光発電システムや家庭用燃料電池を組み合わせた環境配慮型住宅「グリーンファースト」を1棟建築するごとに2000円を、緑豊かな埼玉を守るため、「森林の保全整備」「身近な緑の保全・創出」「環境教育」の推進に取り組む埼玉県「彩の国みどりの基金」に寄付しています。2013年度は992棟198万4000円を寄付しました。

年度	棟数	寄付金額
2010	774棟	1,548,000円
2011	853棟	1,706,000円
2012	923棟	1,846,000円
2013	992棟	1,984,000円

植樹、地域産材の活用も推進

また、県民が1人1本を植樹する「県民1人1本植樹運動」にも参加し、「5本の樹」計画を通じてお客様に庭への植樹を積極的に提案させていただき、2013年度は3万4486本をエントリーしました。さらに、木造住宅シャーウッドに埼玉県産材である「秩父檜」を構造材の一部に採用する取り組みや、彩の国リバーサポート制度に参加し、河川の美化活動などの取り組みも実施しています。

年度	植樹本数
2010	43,528本
2011	52,686本
2012	50,749本
2013	34,486本

2012年3月埼玉県が主催する「第13回さいたま環境賞」を受賞しました

「さいたま環境賞」は、優れた環境への取り組みを実施する団体や事業者を表彰するもので、第13回となる今回は、応募総数51件のうち11件（県民部門8件、事業者部門3件）が受賞。当社はその中で、住宅業界初の事業者部門賞に選ばれました。

「環境学習応援隊」として県内の小中学校にて出前授業を実施し、子どもたちが楽しみながら環境に配慮した暮らし方や当社の環境の取り組みについて学んでいただく活動や、2010年度から継続して実施してきた「みどりと川の再生」活動への参加等が評価されたものです。

防犯・防災の啓発活動

防災意識の啓発

住まいの防災対策には、建物のハード面の充実だけではなく、そこに生活する人々の日常からの備え、防災意識の向上が大切です。当社では、防災意識啓発のために、研究で培った生活ノウハウや防災リテラシー情報を積極的に発信しています。

生活リテラシーブック「住まいと暮らしと防災」の発行

また、生活者にとって有用な情報や、災害に備えて知ってほしい生活ノウハウを一般雑誌スタイルでまとめた生活リテラシーブック「住まいと暮らしの防災」の発行や、一般生活者向けの「防災セミナー」の開催、当社の大型分譲団地で実施される住民主体の防災訓練にも、開発企業として参加し、地域住民に対する防災セミナー開催などを通じて防災意識を啓発しています。



生活リテラシーブック「住まいと暮らしの防災」

2013年度の取り組み

各地のイベントに出展し、防災意識を啓発

地震、台風、集中豪雨、竜巻など各地で自然災害が相次いでいる昨今、災害に強い住まいを提供することはもちろんですが、お客様をはじめ一般の方々に向けて、広く防災意識の啓発を行うことも、総合的な「住宅防災」の大切な取り組みの一つと考え、2013年も各地で開催されるイベントに積極的に出展してまいりました。

■ ① 震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI 2013」で防災クイズラリーを実施

2013年3月に本社のある梅田スカイビルで開催された震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI 2013 ～一歩、また一歩～」では、「防災クイズラリー」を実施し、イベントにご来場いただいた多数の方にチャレンジしていただき、防災知識の向上に取り組みました。



■ ②大阪市福島区主催の防災イベント

2013年8月31日に大阪市福島区が主催した防災イベントにブース出展し、家具転倒防止実験の映像を放映したり、家具転倒防止用の金具等を展示したりするなどして、防災意識の啓発を図りました。



■ ③オープンイノベーション拠点「住ムフムラボ」でも「もしものコト」としてテーマアップして展示

突然の自然災害や、まさかの空き巣被害など、もしもの時に慌てないために、どんな備えが必要か、考えていただくアイテムを2013年4月に開設した「住ムフムラボ」内に多数展示しています。



防犯・防災の啓発活動

災害時における地域との協働

訓練や備蓄で、お客様や地域住民の方々とともに災害に備えています

サステナブル社会を形成するためにも、防災への取り組みは欠かせません。「企業も地域の一員」と考える当社は、地域の皆様と一緒に災害に備えています。一例として、当社分譲地の「リフレ岬・望海坂(のぞみざか)」(大阪府泉南郡岬町)では、定期的に各種防災訓練を実施するなどして、住民一人ひとりの防災意識の向上に努めています。

■ 自治会と共同で防災訓練を実施(リフレ岬・望海坂)



東日本大震災時にも「お客様と地域のために」を判断基準に速やかに対応

静岡工場では、2004年に発生した新潟県中越地震を支援した経験を活かし、従業員だけでなく、地域の皆様にとってもお役に立つものにするために、備蓄品は、食料や水といった生活必需品から復旧用の工具やシャベル、医薬品など多岐にわたってそろえています。2011年3月に発生した東日本大震災においては、主要交通網が寸断された被災地のお客様や事業所に向け、支援物資の供給を早急に行いました。地震発生3時間後には静岡工場から第一便が出発。その後も順次、現地(岩手北上、仙台、福島、郡山、群馬、水戸)に支援物資を輸送しました。支援物資はお客様や従業員だけでなく、病院や避難所、一般被災者の方々にもお渡ししました。

■ 発災3時間後には、工場に備蓄している水や食料をトラックに積み、被災地に向け出発



また、これまでの災害時に培ってきた経験をもとに、グループ一丸となり「お客様と地域のために」できることを第一に考え、炊き出しや支援物資受付に使用するテントと仮設トイレの設置、賃貸物件の一部を被災者支援住宅として提供するなど、さまざまな取り組みをいち早く実施しました。

さらに、お客様の安否確認や支援物資提供で避難所を訪れた際には、「あなたの無事を他の地域や避難所にいらっしゃ

るご家族・ご親戚にお伝えます」と声をかけ、預かったメッセージを伝えるために何十件も電話をかけ続けるなど、一人ひとりが今何ができるかを考え、自発的に行動しました。



仮設トイレを
分譲地内の公園に設置







赤十字病院との協定に基づき、
テントを設置



断水が続く地域へ、
水とポリタンクをお届け

【関連項目】

- > [東日本大震災からの復興の取り組みについてのご報告\(「サステナビリティレポート2014」PDF: 1.1MB\)](#) 
- > [東日本大震災からの復興の取り組みについてのご報告\(「サステナビリティレポート2013」PDF: 1.1MB\)](#) 
- > [東日本大震災復興に向けた積水ハウスグループの取り組み\(「サステナビリティレポート2012」PDF: 800KB\)](#) 
- > [東日本大震災における、積水ハウスグループの活動についてのご報告\(「サステナビリティレポート2011」PDF: 1.1MB\)](#) 
- > [「住宅防災」の考え方 \(p.304\)](#)


防犯・防災の啓発活動

防犯教育と意識啓発

生活者の犯罪に対する不安感が依然として高い昨今、住まいにおける防犯対策の強化が求められています。当社では、誰もが安心して暮らせる住まいやまちづくりを目指して、防犯仕様やタウンセキュリティなどの普及を図ると同時に、一般の方に向けた防犯意識の啓発に積極的に取り組んでいます。

体験型施設や情報発信を通じて啓発しています

住まい手の防犯意識を高める啓発活動としては、当社のお客様に限らず広く一般の方々を対象に、「住ムフムラボ」(大阪市)や「納得工房」(京都府木津川市)、全国の「住まいの夢工場」などを活用し、体験を通して楽しみながら学んでいただいています。また、住まいに関するさまざまな角度からの調査・研究成果を、わかりやすくまとめて発信する冊子「view point」の第4号で、防犯意識に関する実態や泥棒に狙われにくい住まいづくりを紹介しています。

[「view point」第4号「泥棒に狙われにくい住まい」～我が家を守る独自の秘訣～](#)  (PDF 1.1MB)

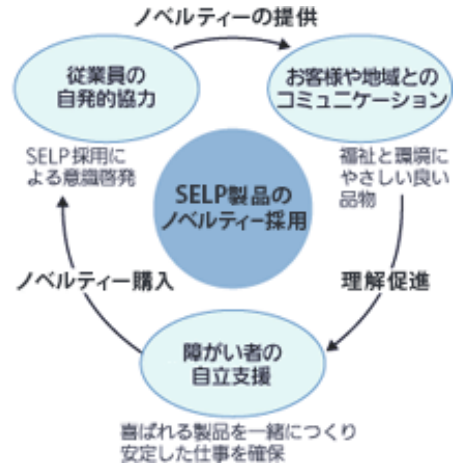
また、全国で開催される「防犯」をテーマにしたセミナーなどに、当社総合住宅研究所の研究員が講師として協力しています。

障がい者の自立支援

SELP（セルフ）製品の販売協力、ノベルティー採用

住宅メーカーという、あらゆる人々の生活に携わる企業として、また、企業理念の根本哲学である「人間愛」に立脚した企業活動として、2000年からNPO法人 トウギャザー（奈良市）と協働。SELP（セルフ）製品※をノベルティーグッズとして採用・購入し、障がい者の自立と社会参加を支援しています。日本全国積水ハウステー「住まいの参観日」をはじめとする各種イベントや展示場の来場者にお渡しするノベルティーグッズとして、お客様や地域とのコミュニケーションの機会に活用することで、社員の意識啓発にもつながっています。

※ SELP（セルフ）製品とは、障がい者が社会福祉施設において、リハビリテーションや職業訓練、社会参加の実現を目的に働き、つくる製品のことで、「SELP」は英語のSelf-Help（自助自立）からの造語です。また、Support（支援）、Employment（就労）、Living（生活）、Participation（社会参加）の頭文字から成る語ともされています。



NPOとの協働で、累計24万個以上を採用

2013年度は、SELP製品をノベルティーグッズとして全国で計3万394個採用しました。2011年、2012年に引き続き、東日本大震災で被災した東北の障がい者福祉施設で生産されている製品もラインアップに加えています。SELP製品のこれまでの採用実績は累計24万個を超えています。

2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
39,738個	32,290個	29,414個	28,452個	35,045個	30,394個



一番人気のエコバッグ。デザインをリニューアルしました



動物の形のはし置き。家や木の形のものもあります



東北の障がい者福祉施設で生産されているキャンドル



積水ハウスの木造住宅「シャウウッド」の端材を活用したストラップ

障がい者の自立支援

障害者週間協賛行事への参画

障害者基本法では、毎年12月3日から12月9日までの1週間を「障害者週間」と定めています。これは障害者の福祉について広く国民の関心と理解を深めるとともに、障害者が社会・経済・文化など、あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的としたものです。大阪での障害者週間協賛行事開催は2013年度で9回目となります。障害者・市民・経済団体・民間企業・NPOなどが一体となって実施することで、徐々に定着してきました。積水ハウス株式会社およびグループ会社の積水ハウス梅田オペレーション株式会社は、このイベントを主催する障害者週間協賛行事 大阪実行委員会の事務局を務めています。

2013年度は「障害者の就労と自立を支援する社会づくりのために～障害者雇用促進法改正がもたらす変化～」をテーマにシンポジウムを開催

行事の中心となるのが「障害者と社会をつなぐシンポジウム」です。企業や福祉関係団体のほか、障害者当事者、親の会、教育関係者、学生など、さまざまな立場の人が自由に参加し、協働関係について考え、議論する場です。

2013年度は、障害者雇用促進法の改正を受けて、特例子会社の取り組みを中心に、障害者雇用のあり方を議論しました。基調講演として「障害者雇用の現状と課題」について株式会社ダイキンサンライズ摂津 顧問 應武善郎氏にお話しいただいた後、「特例子会社をめぐる現状と展望」についてパネルディスカッションを実施。パネリストの方々に、それぞれの立場から現状と今後の課題などをお話しいただき、会場全体でディスカッションを行いました。

なお、2013年度は、障害者の自立支援および東日本大震災被災地の復興支援の一環として、シンポジウムで配布する冊子の制作を東北の障害者福祉事業所に依頼しました。



シンポジウムには手話通訳があり、点訳の資料も用意。160人が参加し、意見交換をしながら、障害者の就労と自立支援策について考えました

■ 基調講演「障害者雇用の現状と課題」

【講師】

應武 善郎氏(株式会社ダイキンサンライズ摂津 顧問)

■ パネルディスカッション「特例子会社をめぐる現状と展望」

【パネリスト】

黒田 英彦氏(ココヨKハート株式会社・ハートランド株式会社 代表取締役社長)

内藤 哲氏(東京海上ビジネスサポート株式会社 採用能力開発部 部長)

前川 光三氏(株式会社かんでんエルハート 代表取締役)

邑田 知子氏(布施公共職業安定所 専門援助部門 統括職業指導官)

【コーディネーター】

早瀬 昇氏(社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事／障害者週間協賛行事 大阪実行委員会 委員長)

関連行事として「みんなでつくる共生社会パネル展」をはじめ、障害者による芸術作品展「コラボ・アート21」、障害者の手づくり作品を販売するバザーなどを開催。さらに、CSRに積極的に取り組んでいる関西の企業やNPOを中心に、障害者の自立と社会参加を支援するための活動を紹介する「障害者の社会参加を支援する企業展示会」を開催しました。開催期間中の来場者は3万4166人に上りました。



「障害者の社会参加を支援する企業展示会」積水ハウスブースでは、障害者配慮住宅の事例と、社外と連携した障害者支援の取り組みを紹介

■ みんなでつくる共生社会パネル展

大阪府下の小中学生による「障害者週間のポスター」「心の輪を広げる体験作文」の優秀作品を展示。

■ 障害者の社会参加を支援する企業展示会

障害者の自立と社会参加を支援する企業やNPOなどの取り組みを紹介(27団体が出展)。

■ 「コラボ・アート21」公開展示会

障害のある方々から寄せられた芸術作品の展示会。応募総数816点の中から選ばれた絵画や立体などの優秀作品30点を紹介。

■ ふれあいトウギャザー ～障害者による手づくり作品展示・販売会～

東日本大震災被災地をはじめ全国の障害者施設から取り寄せた商品を展示・販売。

■ とっておきのさをり展

誰もが楽しめる現代手織り「さをり織り」の作品約3000点を展示・販売。福島県浪江町から避難されている方々と、福島市の障害者施設・アートさをりの仲間と一緒に生み出したブランド「チームふくしま・SAORI」の商品も出品。

NPO・NGOとの協働

NPO・NGOとの協働

当社は、事業活動はもとより社会貢献活動においても、さまざまなNPO・NGOと協働した取り組みを展開しています。今後も、環境保全やコミュニティづくり、障がい者自立支援などのテーマにNPO・NGOと協働で取り組むとともに、従業員参加型の寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を通じて、多くの団体の活動を支援していきます。

環境保全の推進で

「5本の樹」計画の推進にあたっては[特定非営利活動法人 生態教育センター](#)（東京都 東村山市）に監修・アドバイザーとして協力いただいています。庭木と生物の関係を図鑑にした「庭木セレクトブック」の発行においても編集協力など、大きなサポートをいただいています。

さらに、社内研修ビデオの監修には[環境NGO「環境市民」](#)（京都府京都市）から、「木材調達ガイドライン」策定・運用にあたっては[国際環境NGO「FoE Japan」](#)（東京都豊島区）からアドバイスをいただくなど、環境保全活動の推進において、さまざまな形でNPO・NGOと協働して取り組んでいます。

【関連項目】

- > [「5本の樹」計画とは](#) (p.217)
- > [木材調達ガイドラインとは](#) (p.209)

「キッズデザイン」の推進で

「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」「子どもたちを産み育てやすい」という3つの理念を制定し、それに基づく調査研究事業や顕彰事業などを展開している[NPO法人 キッズデザイン協議会](#)の運営に協力しています。発足当初から、NPO法人 キッズデザイン協議会会長には、当社会長兼CEOの和田勇が就任しています。

【関連項目】

- > [キッズデザイン協議会](#) (p.382)

社会貢献プログラムの推進で

当社が従業員と共同して取り組む寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」において、「積水ハウスこども基金」と「積水ハウス環境基金」の2つの基金を運営し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPO・NGOなどの活動を

支援しています。支援先団体の選考にあたっては「社会福祉法人 大阪ボランティア協会」(大阪府大阪市)にアドバイザーとして協力いただいています。

【関連項目】

- > [従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」](#) (p.385)

社会起業家育成で

地域と連携を深めること、社会的課題をビジネスで解決していくこと、コミュニティビジネスを応援・育成していくことは、当社にとって関心の高い課題です。[NPO法人「edge\(エッジ\)」](#) (大阪府大阪市)が実施するビジネスプランコンペに特別協賛し、社会起業家を目指す若者の育成を支援しています。

2013年度に実施した、東日本大震災被災地での新人研修でもNPO法人「edge」と連携しています。

障がい者自立支援の取り組みで

障がい者の自立支援にあたっては、[NPO法人「トゥギャザー」](#) (奈良県奈良市)と協働して、取り組みを進めています。NPOのコーディネートにより、障がい者施設のネットワークが企業のニーズに応えています。障がい者がつくったSELP(セルフ)製品の協働企画、障がい者支援イベントなどを実施する中で、従業員の意識向上にも大きな役割を果たしています。

【関連項目】

- > [障がい者の自立支援](#) (p.375)

NPO・NGOとの協働

「チャイルド・ケモ・ハウス」の運営に協力

小児がんと闘う子どもが、家庭のような環境で治療に専念できるチャイルド・ケモ・ハウス」の建設に協力

「チャイルド・ケモ・ハウス」は、NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウスが2006年から建設実現に向けて活動を続けてきた「がんと闘う子どもたちが暮らすケアホーム」です。「病院」や「施設」ではなく、「家」に近い環境で、親やきょうだいと暮らしながら治療を行えるメリットがあります。当社はこれまで、従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を通じて、NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウスの活動を応援してきました。今回の建設にあたっては、約2億2000万円の寄付を実施したほか、総合設計・企画および施工を担当しました。また、建設後もさまざまなかたちで運営に協力しています。



〈 建築概要 〉

【建築地】神戸市中央区港島中町8丁目5番3(ポートアイランド 神戸医療産業都市内)

【建築主】公益財団法人 チャイルド・ケモ・サポート基金

【総合設計・企画】手塚貴晴、手塚由比、株式会社手塚建築研究所、積水ハウス株式会社

【施工】積水ハウス株式会社

【構造・規模】重量鉄骨造(ベレオ)／地上1階建

【延床面積】1931.50㎡



自然光を多く採り入れることができるよう天窓を随所に配置したほか、子ども視点のクリーンな空気環境を実現する当社独自の空気環境配慮仕様「エアキス」を採用しています。また、外構には「3本は鳥のために、2本は蝶のために」をコンセプトに、生物多様性に配慮した「5本の樹」計画を中心に自生種、在来種を中心とした植栽を実施。大きな窓から、樹木に訪れる野鳥や蝶を眺めることで、情操教育にもつながります。

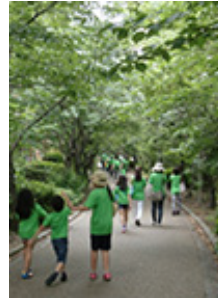
社員を通じたさまざまな支援活動

2013年度は、本社部門の社員に呼び掛けて、「チャイルド・ケモ・ハウス」の施設見学会を実施しました。毎回、定員30人を超える社員が参加し、チャイルド・ケモ・ハウス事務局の方のお話を直接聞くとともに、チャリティグッズの購入や施設内外の清掃活動を行いました。

他にも、参加者が全員お揃いのチャリティTシャツを着用し、JR三ノ宮駅から「チャイルド・ケモ・ハウス」の施設までを歩くイベント「チャイルド・ケモ・ハウス チャリティウォーク」への参加や、売り上げの一部を寄付する自動販売機の設置、グランフロント大阪「住ムフムラボ」内で募金を呼び掛けるコーナーを設置するなど、継続的に支援を行っています。



社員を対象とした「チャイルド・ケモ・ハウス」の見学会、施設の清掃活動



チャイルド・ケモ・ハウス
チャリティウォークの様子



「住ムフムラボ」内の募金コーナー

「積水ハウスマッチングプログラム」を通じた活動支援

会社と従業員の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を通じて、2008年から活動を支援。小児がんのケアに関わる看護師等のスタッフ育成プログラムの作成に向けた研究活動や子どもたちの苦痛を和らげ快適な環境をつくるためのツール開発、社会への啓発活動等をサポートさせていただきました。

	助成プログラム	助成金額
2008年度	小児がんの患児のケアにかかわる スタッフトレーニング&エンパワーメントプロジェクト	1,092,000円
2009年度	小児がんの患児のケアにかかわる スタッフトレーニング&エンパワーメントプロジェクト	1,280,000円
2011年度	小児がんの子どもと家族を笑顔にするための活動の 研究と実施	1,000,000円

理想的な治療環境づくりの支援に感謝します

2005年6月、「小児がんの子どもと家族にとって、理想の治療環境とは何か」を考えるため、医療関係者と患者さんのご家族が集まったことが、チャイルド・ケモ・ハウスの活動の始まりでした。小児がんの治療は、「入院が長期になる」「抗がん剤の使用による免疫機能の低下で、風邪などの感染症になると命に関わる」という2つの特徴があります。私たちは「がんになっても笑顔で育つ」「理想の病院は家です」というキャッチフレーズのもと、小児がん治療時も日常生活を維持し、子どもが健やかに成長できる環境を提供したいと考えています。多くの方々からのご寄付と、積水ハウス様、手塚建築研究所様との夢のコラボレーションにより、感染症対策に重要な空調など、最新の技術を採用したこの理想の施設は完成しました。積水ハウス様には、施設建設費の2億円以上のご寄付をはじめ、研究助成などに継続的なご支援をいただき、心より感謝しています。皆様の温かいお気持ちを励みに、これからも新しい医療のかたちを目指していきたいと思っております。



チャイルド・ケモ・クリニック
院長
楠木 重範さん

【関連項目】 > [「NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウス」ホームページ](#)

NPO・NGOとの協働

キッズデザイン協議会

2006年5月、次世代を担う子どもたちの健やかな成長・発展につながる社会環境の創出を目的として「キッズデザイン協議会」が発足しました。2007年4月には、業界の垣根を超えて、さまざまな企業・団体・自治体関係諸機関が集い、特定非営利活動法人(内閣府認定NPO)として設立されました。当社は、発足当初から、協力、支援を行うとともに、会長には当社会長兼CEOの和田勇が就任しています。2013年10月現在の会員数は90団体に達しています。

キッズデザインとは、次世代を担う子どもたちの健やかな成長発達につながる社会環境の創出のために、デザインのチカラを役立てようとする考え方であり、活動です。「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」「子どもたちを産み育てやすいデザイン」。このデザインの3つの理念のもと、成り立っています。この取り組みの普及のため、「キッズデザイン賞」が設けられ、2013年までに7回実施されています。2013年からは、最上位の賞として「内閣総理大臣賞」も創設されました。

弊社は第1回から継続して参加し、これまでに多数の「キッズデザイン」製品・サービスを開発しています。2013年度は子どもの安全や成長に配慮した積水ハウスの取り組みのうち10項目が「キッズデザイン賞」を受賞しました。




2013年度の取り組み: 「子どもたちの元気プロジェクト」の企画・運営に協力

2013年度は、キッズデザイン協議会会員企業が、東日本大震災被災地で、親子体験ワークショップを実施し、被災地の子どもたちに元気と笑顔を届ける「子どもたちの元気プロジェクト」の企画・運営に協力。3月9日・10日に福島県福島市で開催された「キッズワークショップカーニバル in ふくしま」にも出展しました。その後開催された、キッズデザイン巡回展(新潟県立科学館にて開催)にもキッズデザインをメインテーマとした展示+ワークショップによるイベントを実施しました。



「キッズワークショップカーニバル in ふくしま」の様子。子どもたちに笑顔と元気を届けることができました。

【関連項目】

- > [「NPO法人 キッズデザイン協議会」ホームページ](#) 
- > [子どものためのユニバーサルデザイン「コードモイドコロ」](#) (p.332)
- > [主な表彰実績](#) (p.142)

NPO・NGOとの協働

西山卯三記念すまい・まちづくり文庫～住文化の継承と発展への協力

当社は、建築学者で京都大学名誉教授でもあった西山卯三氏が、生涯にわたって収集・創作した研究資料 約10万点を保管するNPO「西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫」(京都府木津川市、以下「西山文庫」)に、総合住宅研究所の一面を提供し、活動を支援しています。2013年度は毎年春と秋に開催している「すまい・まちづくりフォーラム関西21」の開催などに協力しました。

住まいや生活、まちづくりに関する研究を支援

わが国の大学では、優秀な研究者による研究資料(図書、図録、図面、写真、メモ等)は、当該研究者が研究室を引退すると大学図書館や学部学科はおろか、当該研究室でさえ、それらを継承し活用するという仕組みが十分とはいえず、そのため、その時代でしか入手することができない一級資料や原資料などは、世代交代によって大量に失われているのが現実です。とりわけ住まいや生活に関する資料は、それらが建築系学問としては未整備であった時代、そしてわが国が戦後の混乱の中、西山氏は自らの足で全国津々浦々、あらゆる階層の人々の暮らしを取材し、膨大な資料のほか自筆のスケッチや写真に残してこられました。こうした社会的に貴重な文化的財産である西山氏による研究・創作資料約10万点を後世に残し、その精神を受け継ぎ次代の研究者に提供し育てるということが「西山文庫」の使命であり、毎年様々な成果を上げている日本でも稀有な事例です。当社もそこに共感し、物心両面での支援を当初から行っています。



積水ハウス(株)総合住宅研究所内に設置
「西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫」

市民参加型フォーラム「すまい・まちづくりフォーラム関西21」開催に協力

2002年から開催している一般公開の「すまい・まちづくりフォーラム関西21」への協賛もその一つで、2013年度までに32回、本社のある梅田スカイビルや積水ハウス(株)総合住宅研究所などで開催しています。「すまい・まちづくりフォーラム関西21」の開催趣旨は住環境にかかわる今日的な話題や歴史・文化的意味などについて検証し、21世紀の住まい・まちへ持続的発展につながる多彩な情報を発信して住文化の発展に貢献することです。そしてフォーラムは広く一般に公開し、それを通して専門化した各セクター間の調和を目指すとともに、市民と専門家、学生などのジュニア世代とシニア世代、公共と民間、メーカーとユーザー、都市とコミュニティといった新たな住まい・まちづくりの関係性を構築したいと願っています。

安全・安心なまちづくり、まちの再生、持続可能なまちづくりの実現をテーマに、市民参加型のフォーラムは、毎回その道のトップランナー諸氏による講演ということもあって、講演後の意見交流では講師と参加者の間で活発な討論となり、住まい・まちづくり文化の向上に一石を投じてきました。講演者にとっても西山文庫で話すことは知的刺激に富んだ機会と評価されています。



2013年秋のフォーラム 会場風景

年度	期	テーマ	講師
2010年	春	歴史とエコロジーからのまちづくり ～日伊の比較から～	講師:陣内 秀信(法政大学教授)
		大阪のまちづくり ～歴史を読み解き、歴史を活かす～	講師:谷 直樹(大阪市立大学教授)
	秋	芦屋市の景観行政	講師:山中 健(芦屋市長) コメンテーター:安本典夫 コーディネーター:武山清明
2011年	春	アジアの都市とアジアンアーバニズム	講師:出口 敦氏(東京大学大学院 新領域創成科学研究科教授)
2012年	春	縮小する家族と未来の住まい 縮小する家族と世帯の変化:国際比較から	講師:筒井 淳也(立命館大学産業社会学部 准教授)
		家族を超えて住まいを育む ～1住宅=1家族の終焉～	研究報告者:近藤 民代(神戸大学工学 研究科)
		シニア世代のリアルボイス ～二人で暮らす住まい～	研究報告者:彌重 功(積水ハウス(株) 総合住宅研究所)
		「ネット・ケータイ世代」の家族と住まいはどう 変わるか?	研究報告者:米野史健 (独立行政法人建築研究所)
2013年	春	「シェア住宅は若者を救うか?!」	研究報告者:丁 志映(チョン・ジヨン)さん (千葉大学工学部)
	秋	「グランフロント大阪で振り返る関西の昭和の 住まい」	研究報告者:彌重 功(積水ハウス(株)) 研究報告者:松本 滋(西山文庫運営委員長)

企業市民としての取り組み

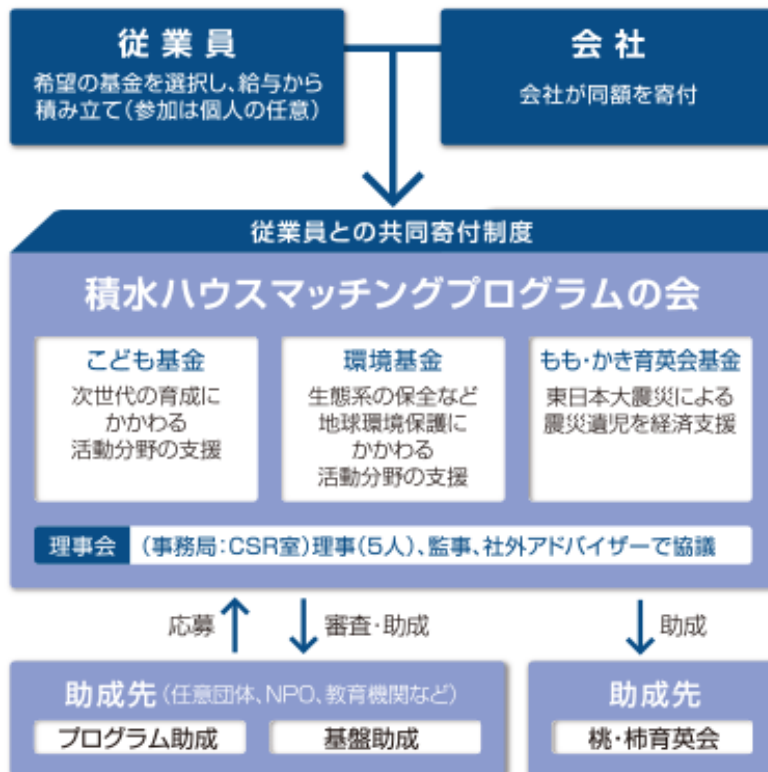
従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」

当社は、従業員と当社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」(会員数約3074人)を2006年度から開始し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPOなどの団体を支援しています。このプログラムは、従業員が給与から、希望する金額(1口100円)を積み立て、それに会社が同額の助成金を加えて寄付する仕組みです。「こども基金」と「環境基金」の2つの基金があり、会員代表で構成する理事会で支援先を決定しています。

2013年度は、「こども基金」10団体(プログラム助成8団体・基盤助成2団体)に1070万円、「環境基金」12団体(プログラム助成8団体・基盤助成4団体)に970万円、合計22団体2040万円の助成を実施。2006年開始当初からの累計寄付金額が1億円を達成しました。

また、東日本大震災による震災遺児を経済的に支援する「桃・柿育英会」(実行委員長:建築家 安藤忠雄氏)の趣旨に賛同し、3つ目の基金として2011年に設置した「もも・かき育英会基金」は、2013年度に1200万円(累計:2900万円)を寄付しました。「もも・かき育英会基金」では、10年間にわたり、会社と従業員が共同で1億円の支援を予定しています。

■「積水ハウスマッチングプログラム」の仕組み



団体に対する基礎的支援「基盤助成」も実施

助成には、申請があった個々のプログラムに対して助成する「プログラム助成」と、団体のインフラ整備、活動の質の向上、会員拡大などの取り組みに助成する「基盤助成」の2種類を実施いたします。「基盤助成」は、資金使途に制約が少なく、団体の基盤強化に幅広く活用できることから、これまでに基盤助成を実施した団体からも好評です。

また、基盤助成団体に対しては、協働事務局の社会福祉法人 大阪ボランティア協会による「基盤的支援」にかかわるヒアリング、コンサルティングを行っています。

■ プログラム助成(こども基金)・・・団体からの申請プログラムに助成

団体名・プログラム名	助成金額
NPO法人 アジアチャイルドサポート 水と電気を守る子どもたちの命を支える未来	100万円
NPO法人 アジア日本相互交流センター・ICAN ミンダナオ島南部超大型台風被害を受けた子どもたちの教育を通じた復興事業	200万円
NPO法人 アトピッツ地球の子ネットワーク 東日本大震災で被災したアレルギー患者の夏休み環境教育キャンプ	150万円
NPO法人 オアシス カンボジア貧困村での新設中学校建設を通し、ソーラーパネルの電力を活用した実験・技術・技能教育の推進プログラムの実現	110万円
NPO法人 コミュニティリーダーひゅーるぼん 子どもの育ち応援プログラム	120万円
NPO法人 たすけあいの会ふれあいネットまつど ひびき仮設子ども元気プロジェクト	100万円
NPO法人 チャイルドライン支援センター 子どもの声を聴いて・伝えて・社会で子育て支援	100万円
NPO法人 フローレンス 外で遊べない子どもたちに遊びの場を!「ふくしまインドアパーク南相馬」事業	150万円

2013年度 助成団体の声

NPO法人 コミュニティリーダーひゅーるぼん 理事 川口隆司氏

2013年1月、多くの方々のご支援を受け、私たちの夢であった「こども発達支援センター」が完成しました。国内初のNPO法人によるセンター開所でしたが、ほとんど公的な支援がなかったため、今回の「積水ハウスマッチングプログラム」は、たいへんありがたく、開所に向けての励みとなりました。これによって、子どもたちの遊具、教具、給食備品などを新しくそろえることができたばかりか、未整備だった外構も整えることができました。積水ハウス社員の皆様、保護者や子どもたちとともに汗を流し、つくり上げた外構には、ヤマボウシとヒメリンゴを植樹し、来訪者を優しく出迎えるアプローチとなりました。施設の建設、そして今回のプログラム助成を通して、積水ハウス社員の皆様の優しく真摯な姿勢を感じさせていただきました。皆様の思いを受けて、ぬくもりと優しさに包まれた建物の中で、子どもたちが笑顔とともに成長するように、心を込めた療育を行ってまいりたいと思います。



外構ワークショップの様子



給食の様子

団体名・プログラム名	助成金額
NPO法人 おおいた環境保全フォーラム ウミガメ産卵地復活を目指す!元猿海岸協働再生プロジェクト	70万円
NPO法人 里山倶楽部 「チャリティネット森が好き!寄付カタログ」の活用による、森林保全活動の支援者 拡大キャンペーン事業	110万円
NPO法人 白神山地を守る会 生物多様な森のあり方と気候変動の影響から海を守る事業	80万円
NPO法人 生態工房 ニホンイシガメが棲む水辺環境の整備と回復	100万円
NPO法人 棚田LOVER's 棚田・生態系保全、エココミュニティ創設プロジェクト ～地域全体で子どもたちが育める場を～	150万円
NPO法人 地球と未来の環境基金 山林の保水力・保土力向上と大井川の再生を図る植林&地域活性化事業	80万円
NPO法人 日本国際ボランティアセンター 「生態系に配慮した農業による生計改善」プログラム	200万円
NPO法人 日本チョウ類保全協会 庭のチョウ類調査ガイドブックの作成	100万円

2013年度 助成団体の声

NPO法人 コミュニティリーダーひゅーるぼん 理事 川口隆司氏

「積水ハウスマッチングプログラム」のご支援ありがとうございます。

当会は、世界遺産・白神山地のブナの森の復元・再生活動ならびに陸奥湾のホタテを高温障害から守るための植樹祭を続けています。私たち人間の行動による地球温暖化が原因で、生物多様な環境が破壊されようとしています。森・川・海の連関性は、人間でいうと血管の役目を果たしています。山の植生と陸奥湾の海は一つの「環」として連なっています。

私たちはこの山や海の自然を守るために、積水ハウス青森支店の皆様と一緒に汗を流しています。青森支店が開催された住宅セミナーでも当会の取り組みを紹介させていただきました。また、著名な講師陣を招いて環境問題や生物多様性について学ぶ「いだわしい(津軽弁で「もったいない」の意味)シンポジウム」にもご協力いただくなど、青森支店と当会がコラボレーションしたCSR活動を展開しています。これからも活動を継続し、青森県内の企業との先進的な成功事例として広げていきたいと考えています。



陸奥湾のホタテを高温障害から守る植樹祭



「いだわしいシンポジウム」を開催

■ 基盤助成・・・団体のインフラ整備、活動の質の向上、会員の拡大など今後の発展に期待して助成
(上限20万円を助成)

こども基金	環境基金
ひらの地域生活支援センター時空想 ～Jigsaw～	かしま環境ネットワーク
NPO法人 MAMA-PLUG	NPO法人 Seed to Table ～ひと・しぜん・くらしつながる～
	奈良・人と自然の会
	奉仕橋かもクラブ

■ これまでの助成実績(プログラム助成・基盤助成)の合計金額

	こども基金		環境基金		環境基金	
	金額	団体数	金額	団体数	金額	団体数
2009年度	872万円	7	760万円	8	1,632万円	15
2010年度	875万円	14	908万円	16	1,873万円	30
2011年度	863万円	15	703万円	14	1,566万円	29
2012年度	960万円	12	700万円	9	1,660万円	21
2013年度	1,070万円	10	970万円	12	2,040万円	22

社外からの評価

2010年
第4回キッズデザイン賞(ソーシャルキッズサポート部門)受賞
(主催:NPO法人 キッズデザイン協議会)



企業市民としての取り組み

公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」

1996年、六甲アイランド(神戸市東灘区)と深いかかわりのある当社とP&G社が共同で、神戸市における国際的・文化的なコミュニティづくりに資する事業や活動を助成する基金を設立、NPOなど多くの団体の活動を支援しています。2013年度は36件の活動に1970万円を助成し、これまでの助成金額累計は3億8566万円となりました。

基金の仕組み



■ プログラム助成(環境基金)・・・団体からの申請プログラムに助成

	受給者氏名	助成対象
1	東灘アートマンス実行委員会	東灘アートマンス
2	神戸市立小磯記念美術館	RICエコアートカプセル2013
3	特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター	神戸市東部地域における外国人の子ども 学習支援プロジェクト
4	RICふれあい会館	「外国人による講演会2013」&「住民トーク」
5	摩耶登山マラソン実行委員会	シム記念 摩耶登山マラソン
6	RICコミュニティライブラリー	RICコミュニティライブラリー(地域図書館)の 運営・管理
7	特定非営利活動法人 実用日本語教育推進協会	日本語を核とした新しい形の国際交流サロン事業
8	六甲アイランドルネッサンス委員会	六甲アイランドルネッサンスプロジェクト 「International Kid's Day(インターナショナル・ キッズ・デイ)」
9	六甲アイランドCITY自治会	「第26回RICサマーイブニングカーニバル」
10	ひがしなだスイーツめぐり実行委員会	ひがしなだスイーツめぐり

11	六甲アイランド地域振興会 手作りコイノボリプロジェクト	「六甲アイランドコイノボリ手染め大会」
12	六甲アイランド地域振興会 ～ウェルカムフェスティバルプロジェクト	「六甲アイランドウェルカムフェスティバル2013」
13	六甲アイランド地域振興会商業部会 六甲アイランド ハロウィンフェスティバル&収穫祭プロジェクト	「六甲アイランドハロウィンフェスティバル& 収穫祭2013」
14	六甲アイランド地域振興会 スポーツ振興プロジェクト	「RIC SPORTS EXPO」
15	神戸市立六甲アイランド高等学校	地域の特性を活かした国際理解教育と コミュニティづくりの推進
16	六甲アイランドを美しい街にする会	六甲アイランドチューリップ祭と関連事業
17	ひょうごラテンコミュニティ	フィエスタ・ペルアナ神戸2013
18	被災地学生交流事業会	被災地学生交流事業
19	NPO法人関西ブラジル人コミュニティCBK	ラテンアメリカネットワーク作り
20	アジア女性自立プロジェクト	在日外国人女性への生活情報発信と相談活動 及びその総括と今後へ向けての評価事業
21	西区連合婦人会	国際交流のタベ なでしこの盆
22	NGO神戸外国人救援ネット	「外国人のための総合相談事業および問題解決の ための援助とフォローアップ活動」
23	あじさいコンサート実行委員会	心の復興 あじさいコンサート～未来へ～
24	多文化と共生社会を育むワークショップ	みんなでつくる文化と共生社会 (We Are the Worldpart IV編)
25	RIC音楽工房	第19回みどりの風コンサート
26	W.Sひょうご	外国人DV被害女性と子ども、人身取引被害 女性への支援活動
27	こうべ海の盆踊り実行委員会	こうべ海の盆踊り2013「盆踊りコンテスト」・ 「国際交流ブース」・「盆踊り練習会」
28	神戸東おやこ劇場	「のびのび・わくわく楽しいことしよう会」 ～神戸東おやこまつりの開催～講習会・地域公演
29	被災地市民交流会	台湾・東日本・神戸をつなぐ被災地 アート・インスタレーション「白屋」
30	Community House and Information Center(CHIC)	コミュニティ ハウス アンド インフォメーション センター(チック)

■ <文化的な都市環境づくり事業>

私有地(個人・法人所有を問わない)でありながら、公共の利用に提供しているスペース等の環境整備・充実のための事業(ベンチ、街灯、花壇の設置、植樹等)。

	受給者氏名	助成対象
31	特定非営利活動法人総合文化推進機構	KOBE ALOHA BREEZE 2013

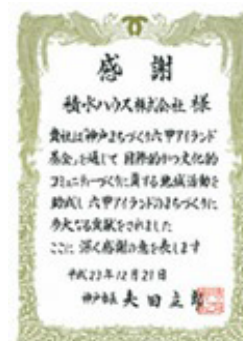
■ <広報・調査・研究活動>

国際的な新しいコミュニティづくりや文化的な都市環境づくりに関する広報、講演、シンポジウム開催および調査、研究活動等。

	受給者氏名	助成対象
32	六甲アイランド地域振興会光の街プロジェクト	「六甲アイランド光の街プロジェクト」
33	神戸市東灘防火安全協会	東灘救急フェア2013(仮称)
34	東灘市民放水大会実行委員会	東灘市民放水大会
35	六甲アイランドまちづくり協議会	六甲アイランドの街路愛称の更なる定着化のための広報活動推進
36	灘区総合芸術祭実行委員会	第3回灘区総合芸術祭

社外からの評価

2011年12月、基金設立以来の15年間で、地域団体、NPO、ボランティア団体が実施する413件の活動に助成を実施し、国際的・文化的なコミュニティづくりを支援してきた実績が評価され、神戸市より感謝状を授与されました。



これまでの取り組み

[2011年度助成団体](#)

[2012年度助成団体](#)

チャリティー・義援金・ボランティア

災害義援金

積水ハウスグループでは、国内外で大規模な自然災害が発生した際、コーポレート・コミュニケーション部CSR室が窓口となり、社員に向けて、救援活動や被災地の復興、被災者の生活再建に役立てていただくための災害義援金への協力を呼び掛けています。

2013年度は「フィリピン台風」義援金513万5608円を寄付

2013年度は、11月にフィリピン中部を直撃してレイテ島をはじめ各地に甚大な被害をもたらした、観測史上最大規模とされる台風30号(Typhoon Haiyan)について義援金を募集。積水ハウスグループ社員および協力工事店の皆様から計513万5608円が寄せられました。義援金は、開発途上国で長年にわたり子どもや高齢者・障がい者に目を向けた生活向上支援、紛争や災害が起こった際の緊急救援活動を行っており、このたびの台風に際しても発生直後から現地で食糧や建材などの支援物資の配布、医療支援、家や学校の再建支援などの活動を展開している3団体に寄付しました。

■ これまでの取り組み

年度	義援金名	金額	総額
2007 年度	「能登半島地震」被災者義援金	5,338,834 円	11,312,132 円
	「新潟県中越沖地震」被災者義援金	5,973,298 円	
2008 年度	「ミャンマー・サイクロン」義援金	3,229,911 円	6,535,111 円
	「中国大地震」義援金	3,305,200 円	
2009 年度	「サモア地震・津波災害」義援金	1,032,463 円	5,844,105 円
	「スマトラ島沖地震」義援金	1,064,498 円	
	「ハイチ地震」義援金	3,747,144 円	
2010 年度	「チリ大地震」義援金	2,065,041 円	5,516,199 円
	「中国青海省地震」義援金	1,504,527 円	
	「宮崎県口蹄疫」義援金	1,946,631 円	
2011 年度	「オーストラリア洪水」義援金	2,104,297 円	90,249,438 円
	「ニュージーランド地震」義援金	1,981,666 円	
	「東日本大震災」義援金	82,989,208 円	
	「台風12号および15号」義援金	3,174,267 円	
2012 年度	「九州北部豪雨」義援金	3,502,942 円	3,502,942 円

チャリティー・義援金・ボランティア

チャリティーフリーマーケットの実施

積水ハウスグループでは、全国の事業所でチャリティーフリーマーケットやチャリティーバザーなどを実施。売上金は、東日本大震災などの被災地支援活動を行う団体、各地域において社会課題を解決するための活動を担う社会福祉法人やNPO法人などに寄付しています。

売上金を社会課題の解決を担う団体に寄付し、活動を支援

2013年11月、JR新大阪駅前で開催された、ノーマライゼーションクラブ※主催のチャリティーフリーマーケットに参加しました。1994年から参加している恒例のイベントで、フリーマーケットの売上金は、社会福祉法人ノーマライゼーション協会※を通じて高齢者福祉や障がい者の自立支援に役立てられています。毎年、関西エリアの全事業所・本社・グループ会社の社員が、未使用の贈答品など各家庭で眠っている品物を持ち寄り、値付け作業から当日の販売まで協力して実施しています。2013年度は17万311円を同協会に寄付しました。



ノーマライゼーションクラブ主催のフリーマーケットは大盛況。良い品が安価で手に入ると地域の方々からも好評です

※ 社会福祉法人 ノーマライゼーション協会（大阪市東淀川区）では、障がい者や高齢者などの社会的弱者と「共に生きる」社会の実現をめざし、仕事や生活などの面で、さまざまな支援を行っています。積水ハウスは1991年から会員になっています。ノーマライゼーションクラブは、同協会の後援組織です。

チャリティー・義援金・ボランティア

こどもの日チャリティーイベントへの協力

2004年から、新梅田シティ(大阪市北区)で世界の子どもを救おう実行委員会(大阪ユニセフ協会、NPO法人トウギャザー、梅田スカイビル商店会、大阪新梅田シティライオンズクラブ、積水ハウス株式会社、積水ハウス梅田オペレーション株式会社)主催により、こどもの日チャリティーイベント「困難に直面している世界の子どもを救おう！」を開催しています。人類共通の「宝」である子どもを、自分(自国)の子、他人(他国)の子の区別なく等しく大切に思い、自ら行動することで、世界の子どもたちを救おうという趣旨で実施しているイベントです。具体的には、自然災害や紛争、飢餓など、さまざまな要因によって困難に見舞われている世界の子どもたちの実情を知り、その状況を少しでも改善するための一歩として、会場での募金とともに未使用切手・未使用ハガキ・書き損じたハガキ・外国の紙幣やコインを持ち寄って換金し、世界の子どもたちを救う一助とします。

2013年度は、積水ハウスグループとして70万6888円を寄付

10回目となる2013年度は、5月3～5日に開催。会場には、多彩なステージアトラクションのほか、大阪ユニセフ協会による「ワンコインバザー」、世界の子どもたちの現状を伝える写真パネル展、子どもたちが自ら体験できるワークショップ、アジアの伝統的なおもちゃを通じて異文化を体験するコーナーなどが設けられ、3日間で計1万人が来場しました。

イベントに先立ち、積水ハウスグループ社員に呼び掛けたところ、全国から多くの募金および切手・ハガキ・外国通貨などが集まりました。イベント全体の寄付総額は、112万6420円(うち積水ハウスグループ70万6888円)に上りました。寄付金は大阪ユニセフ協会を通じて、保健や衛生、教育支援など、世界の子どもたちの健やかな成長を守るための資金として役立てられています。



集まった切手・ハガキ・外国通貨などを大阪ユニセフ協会に寄贈



東日本大震災被災地復興を支援するブースを出展。社員ボランティアが東北産の海産物や雑貨などを販売

チャリティー・義援金・ボランティア

地域イベントの支援

当社は地域の一員として、地域イベントの開催および参加・協力をしています

全国各地で、ボランティア活動や協賛等を通じて、森林保全活動や祭り等の地域イベントを支援しています。

東京城東シャームゾン支店では、日本三大祭りのひとつといわれる「神田祭」に参加。昨今では、町内の若い人材が減って御神輿の担ぎ手も少なくなっており、地域貢献の一環として若手社員を中心に参加し、お祭りの盛り上げに貢献しました。

静岡支店では、「積水ハウスマッチングプログラム」で助成している団体「NPO法人地球と未来の環境基金」が主催するイベントに参加。山林保護を図るイベント「川根グリーンパーティー」では、地元林業関係者の方々の指導のもと、間伐作業や樹齢50年を超える樹木の伐採作業を見学しました。

また、2013年は本社のある梅田スカイビルが20周年を迎えたことから、オフィスワーカー向けの「夏祭り」を開催。チーム対抗の綱引き大会や早食い競争が行われ、出場した参加者はもちろん、会場に詰めかけたオフィスワーカーも繰り広げられる熱戦にエールを送り、会場は大いに盛り上がりました。また、梅田オペレーションにより毎年開催している「盆踊り大会」でも、地元自治会、周辺地域の方々との友好を深めるとともに、会場提供だけでなく、企画、設営、運営に協力するなど、2013年度も全国の事業所で多くの従業員が地域のイベントに参加・支援しました。

今後も当社は、スポーツ振興や地域イベントの支援を通じて地域とのつながりを大切にしていきます。



日本三大祭りのひとつ「神田祭」に支店をあげて参加
(東京城東シャームゾン支店)



地元NPO主催の森林保全活動に参加
(静岡支店)



梅田スカイビル20周年を記念し、オフィスワーカー向け「夏祭り」を開催
(積水ハウス梅田オペレーション)

企業市民としての取り組み

社会貢献活動社長表彰

社会貢献意識の高い企業文化を醸成するために、2006年度より従業員の社会貢献活動を社長表彰として顕彰し、社内に周知しています。

2013年度は、3件に社長特別賞、2件に感謝状を授与

2013年度には6件の応募があり、本業である住まいづくりに関するノウハウを活かした環境教育活動、地域住民と従業員が連携したボランティア活動、創意と工夫のある地域に密着した地域イベント支援などが集まりました。3件の活動に社長特別賞を、2件の活動に感謝状を贈りました。

これらの活動は社内誌や社内ホームページなどで従業員に広く紹介し、社会貢献意識の一層の高揚を図っています。

社長特別賞

大阪府箕面市の箕面森町にある里山エリア「とどろみの森」保全活動



年2回(春と秋)に支店全社員で大阪府箕面市の箕面森町にある「とどろみの森」保全活動を実施しており、本年度で4年目の活動となる。「クヌギやコナラの植樹」「間伐」「開墾」「花壇の植付」「間伐材によるテーブル作り」等をチームに分かれて実施。これらの取り組みを社員のみならず、家族やNPO団体、地域の方々と一緒に行うことで、交流及び自然・生態系の保護に対する意識啓発にも繋がっている。(大阪北支店)

積水ハウスとみんなの森



青森県と造林事業委託契約を締結し「積水ハウスとみんなの森」がスタート。従業員はもとより、協力工事店、オーナー様と共に「植樹祭」「下草刈りイベント」等を定期的(年2回程度)に実施している。また本活動から派生した動きとして、青森県各所における自然保護運動や植樹活動(白神山地植樹、陸奥湾植樹祭など)にも積極的に参加。さらに、支店付近の国道4号線沿いにおいて「花いっぱい運動」を始動し、沿道の企業やオーナー様、社員に働きかけ、エリアの美化に取り組んでいる。(青森支店)

■ 積水ハウスとみんなの森

積水ハウスのマンション物件(グランドメゾン)に入居する住民対象に、緩やかな人と人との縁、つながりが広がっていくことを願い、「ひとえん」の企画提案、実施協力をサポート。物件によっては食事会などだけでなく、身近な資源を大切にする「環境教育」や「体験学習」の実施、共用部の菜園を利用して季節の野菜の植え付け、収穫祭を実施している。(マンション事業本部)



感謝状

■ 東京グリーンシップアクション八王子滝山・八王子大谷地域里山保全活動



東京都条例に基づき、都内に残る貴重な自然地を守るために、東京都、NPO、企業が連携して行う自然環境保全活動「東京グリーンシップアクション」に企業として参加。東京都八王子北部に位置する里山保全地域を活動場所とし、長年の管理不足により侵入した外来種の木々の伐採や倒木処理等を、多様な生き物の生息空間に配慮しながら行っている。(東京営業本部)

■ 寝屋川市立木屋小学校ジュニアリーダーの皆さんによる「積水ハウスCSR研究会収集ボランティアへの参加」



積和建設阪和(株)寝屋川事務所と木屋小学校によるCSR活動。ペットボトルキャップ、プルタブを学校に所属する全校生徒で収集。年3回、積和建設阪和の社員と、木屋小学校5・6年生で構成される有志活動グループ「ジュニアリーダー」が中心となり、集まったキャップのシール剥がし、洗浄、袋詰め作業を独自の工夫を凝らしながら行っている。(積和建設阪和株式会社)

これまでの取り組み(過去の社長特別賞受賞活動)

年度(応募総数)	特別賞受賞活動名	事業所名
2006年度 (応募総数: 6件)	福知山支店エリアにおけるボランティア活動・地域貢献活動	福知山支店
2007年度 (応募総数: 12件)	地域清掃活動	静岡工場
2008年度 (応募総数: 7件)	静岡「住まいの夢工場」 教育貢献活動	浜松支店、静岡工場
	「夢工場杯」小学生サッカー大会	関東工場
	納得工房における「すまい塾 こだわり講座」の運営	納得工房、技術研究所、大阪設計部
2009年度 (応募総数: 8件)	和歌山県が推進する企業の森(積水ハウスの森)における森林保全活動	和歌山支店
	「Dr.フォレストからの手紙」	環境推進部、設計部、グリーンテクノ積和関西他
	親子で楽しむ自然体験「田植え、稲刈り、『5本の樹』セミナー、隣人祭り」	長崎支店
2010年度 (応募総数: 7件)	ジョイセフ「思い出のランドセル募金」委員会	北関東営業本部(50周年推進委員会、次世代行動)
	埼玉県と一体となった環境保全活動	埼玉営業本部(環境取組推進グループ「グリーン委員会」)
	巣箱作り教室	いわき支店 巣箱作りプロジェクト
	CSR活動を通じ、社内活性と人材育成	積和建設四国(株)
2011年度 (応募総数: 5件)	該当なし	
2012年度 (応募総数: 7件)	山口工場の1人一年1回以上の社会貢献活動	山口工場
	東日本大震災被災地で、みどり豊かで笑顔あふれるまちを目指す「まちみどりPJ」の推進	まちみどりPJ推進チーム